

第1回「健やか親子21」の評価等に関する検討会 議事要旨

1. 日時:2009年3月25日(水) 9:30~11:30

2. 場所:航空会館 701・702 会議室

3. 出席者:柳澤座長、井上委員、今村委員、衛藤委員、岡本委員、奥山委員
桑原委員、齊藤委員、迫 委員、高山委員、田中委員、三上委員
森田委員、山縣委員、渡辺委員

厚生労働省

村木雇用均等・児童家庭局長、北村審議官、高倉総務課長、宮崎母子保健課長
朝川少子化対策室長、杉上虐待防止対策室長、小林課長補佐、今村課長補佐
大内指導課専門官、山本生活習慣病対策室長補佐

4. 新たな取組に関する主な発言

- 妊婦健診の回数を入れてみてはどうか。最終評価で、公費負担の効果を判定できるのではないか。
- 目標値が「増加傾向へ」「半減」等、表現が曖昧。第1回中間評価のデータと今回のデータの動きから、平成26年における目標は、ある程度数値化できるのではないか。
- 母子保健の指標というのは社会経済状況と密接に関連している。社会経済状況のバックグラウンドがきちんと押さえられているような調査の必要があるのではないか。
- 妊娠、出産の快適性においては、院内助産システムの推進が出てきており、新たな指標も必要ではないか。
- 十代の自殺率といった課題は、(ベースラインと中間評価の)二次点の数値の比較ではなく、長期的な動態を見ないといけないのではないか。
- 少数の虫歯のある子どもが比較的重症な部分が多く、育児困難、ネグレクトと関連などが考えられており、その辺の重症う蝕に対する対応が必要。
- 女性の歯科の指標は年齢を増す毎に悪くなっており、思春期の口腔衛生に対する関心の低下、妊娠・出産、更年期の問題がある。
- 幼児期の子どもの身体面(体力の低下など)を見ておく必要があるのではないか。
- 都道府県や指定行政都市では、児童憲章に伴う条例がほとんどないため、「健やか親子21」の中のベースとして考えていただきたい。
- 朝食の欠食が大きな問題になっていくだろうと思う。親世代の欠食率が非常に高く、1歳から6歳までの子どもの欠食もまだ5~7%近くあるのではないかと指摘されているところであり、徹底的な活動が必要ではないか。